

令和3年度第3回胎内市行政改革推進委員会議事要約

- 開催日時：令和4年2月25日（金）午後1時30分～2時30分
- 開催場所：胎内市役所 委員会室
- 出席委員：今井和彦 菅原卓也 高橋勝栄 富澤佳恵 成田武比古 羽田啓史
牧野恵（敬称略）

1 あいさつ

- ・課長あいさつ
- ・会長あいさつ

2 議事録署名委員選任

- ・議事録署名委員は、高橋委員、成田委員を選任する。

3 第4次胎内市行政改革大綱の検討について

- ・資料に基づいて説明

委員：クラウドファンディングをやる場合、スキー場のときと同じように委託でやるのか、市独自でやるのか。年配の方などはインターネットを使わない人も多いが、そういう場合どういうやり方をするのか。

事務局：案件によってもいろいろあるので一概には言えないが、直営でやるとさまざまな事務が出てくるので委託になるかと思う。また、市報などでも周知したり窓口でもできるようにするなど、ネットを使わない方にも配慮した方法になると思う。

委員：前回の会議でも言ったが、クラウドファンディングをやるのはいいと思うが、委託することを考えると、計画に載せてしまうのではないのではないかと思う。寄付を募ることを事前に予告することになり、市民は寄付の依頼が来るのかなというふうに関心を持ってもらう。市では案はなく、クラウドファンディングに頼るしかないという見方もできる。そういうことがあるので、クラウドファンディングをやることを表に出すことのメリットはあるのかと感じる。ふるさと納税も同じかもしれないが、ふるさと納税は全国的にやっているものであって、市町村で堂々とクラウドファンディングを言っていることは少ないと思う。

事務局：クラウドファンディングが有効なものも限られていると思うので、やるかどうかを決める段階では慎重に検討することになると思うが、財源を得る一つの方法という形で載せておくということであり、何でもかんでもクラウドファンディングを取り入れていくということではない。

委員：クラウドファンディングをやるのは構わないと思うが、大綱や実施計画に今の段階で載せるべきではないのではないかと。初めからこれを出してしまうのは誤解を招くこともあり、どうかと心配している。また、例えば市外から移住してくるときに、この市は大丈夫なのかなと考えたりするのではないかとということもある。

委員：確かに財源の確保という項目の中にクラウドファンディングの寄付でお金を財源

として募ると載せるとなると、外の力に頼るという捉え方になってしまうので、クラウドファンディングを載せるのであれば、市民と共に進めるまちづくりの中で新たなイベントや地域の魅力を作るためにクラウドファンディングを利用するというのならいいかと思う。

委員： 言い方は悪いが、スキー場で味を占めてうまくいったから市はまたやるつもりだなと思われても仕方がないと思う。財源が他力本願なのではないか。この項目に入れてほしくない。

事務局： おっしゃるように財源が枯渇するような何かがあったときに使うことはあるとして、ここに載せておくと最初からそれに頼っているというような印象を持たれてマイナスの方が大きいのであれば、載せることについては考えたい。

委員： 前回からの修正点の資料の No.5 の意見と、意見に対する対応の記述が整合していない。「当初目標値を 97.25%に設定したが、勘案したら 97.31%が妥当と考える」という文章なら整合がとれると思う。

事務局： 文章を直したい。

委員： 実施計画の No.27 の実施内容で、協働をコーディネートできる人材というのはどう人物を育成しようとしているのか。恐らく先立っているいろいろとやったりするリーダーのような人だというのはわかるが、コーディネートという言葉ではピンとこないの、わかりやすい言い方にならないか。

事務局： カタカナ語でなく、もう少しわかりやすい表現にしたい。

委員： 大綱の目次に資料編とあるが、資料にその部分が付いていないのは次の委員のときに作るということなのか。後から付けるということなのか。今から内容がわかるのであれば教えてほしい。

事務局： この部分は市で作成して、大綱が決定されるときには付いている形になる。

なお、1-1 策定体制には行政改革推進委員会での審議・答申を経てこの大綱が策定されたということが、1-2 策定スケジュールにはこれまでの第1回から第3回までの会議の概要が、1-3 行政改革推進委員会の概要には委員名簿と市長からの諮問、市長への答申の写しが入る予定。

委員： 大綱の推進体制の(2)で「市民などで構成される「行政改革推進委員会」に実施計画の進捗状況を報告し、意見などをいただきます。」で終わっている。意見は当然推進本部に反映させると思うのだが、行政改革推進委員会で出た意見を推進本部に必ず反映するというのを明記してもらえないか。これまで委員をやってきて、意見が推進本部にどう反映しているのかがスッキリしないので、推進本部にこの委員会の意見を必ず反映するというのできっちりやった方がいい。

4 その他

事務局： 今日委員の皆さんにいただいた意見を基に事務局で大綱と実施計画の案を修正し市長に答申することになるが、修正案の確認は代表して会長にお願いしたいと思う。それでよろしいでしょうか。

(委員からの異議なし)

会長： それでは私のほうで修正の確認をさせてもらおう。

委員： 2月末で委員の役目を終えることになるが、来年度以降の行革推進委員はどういう立場であるべきなのか。委員に積極的な意気込みがあつたとしても、本当は答えができていて、委員会で議論してそこで決まりましたとすればいいというように形骸化しているのではないのかと思う。

会議を透明化するために次期委員による会議から内容を公表することになったが、委員になる人はそれを踏まえて会議に出席せざるを得ないのでそこを明確にすべきだろうし、次の人が不便やとまどいのないようにやってほしい。

次の委員を選定や公募するときには委員会の位置付けを明確にして、次に委員になる方に周知して進めてもらいたい。会議をして、委員の意見は意見として取り上げる、では実際に実行して改革に結びつけるところまでいけるかどうか。それはあなたが市長や議員になってやればいいじゃないかということになると、真剣に言うのもよそうか、会議に出て無難にして帰ろうかなとなってしまう可能性もある。

委員： 基本的に市民の意見を聞くということでこの委員会がある。だからそれがどう本部に反映されて行政のあり方に活かされているかというのが不明瞭な気がする。推進委員としてやるからには気持ちが湧くような委員会にしていかないと発展はないと思う。こうしたところも検討して、そういう方向に持っていつてもらいたい。

委員： 私自身、委員会では一市民という立場で市民の目線で物申しているという部分も強いが、何も反映されないと出席している意味があまりないのかなと思うし、出席している以上は意見をちゃんと反映させてもらいたい。ぜひ来年度以降はそれができるような体制をとってもらえたらと思う。

委員： 次回からは委員が活気を持った意見を述べて、それが市政に反映するような委員会にぜひしてもらいたい。

以上